

第三次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第1回点検結果の概要

【物質フロー上の評価概要】

○ 循環型社会形成推進基本計画に定められている、我が国におけるものの流れ（物質フロー）に係る指標は、近年横ばいの傾向があり、3Rの取組を徹底する必要。

【国の取組等を踏まえた全体評価概要】

- 2Rの取組を進めるための、社会システムの在り方の検討や事業者等による取組が必要。
- 環境配慮設計、生物多様性や低炭素化との統合、地域循環圏づくり、循環資源のエネルギー源への利用、国際資源循環への取組が必要。
- 進捗点検の方法を見直し、実態を反映した評価、要因分析等を進める。

1. 物質フロー指標の進捗状況

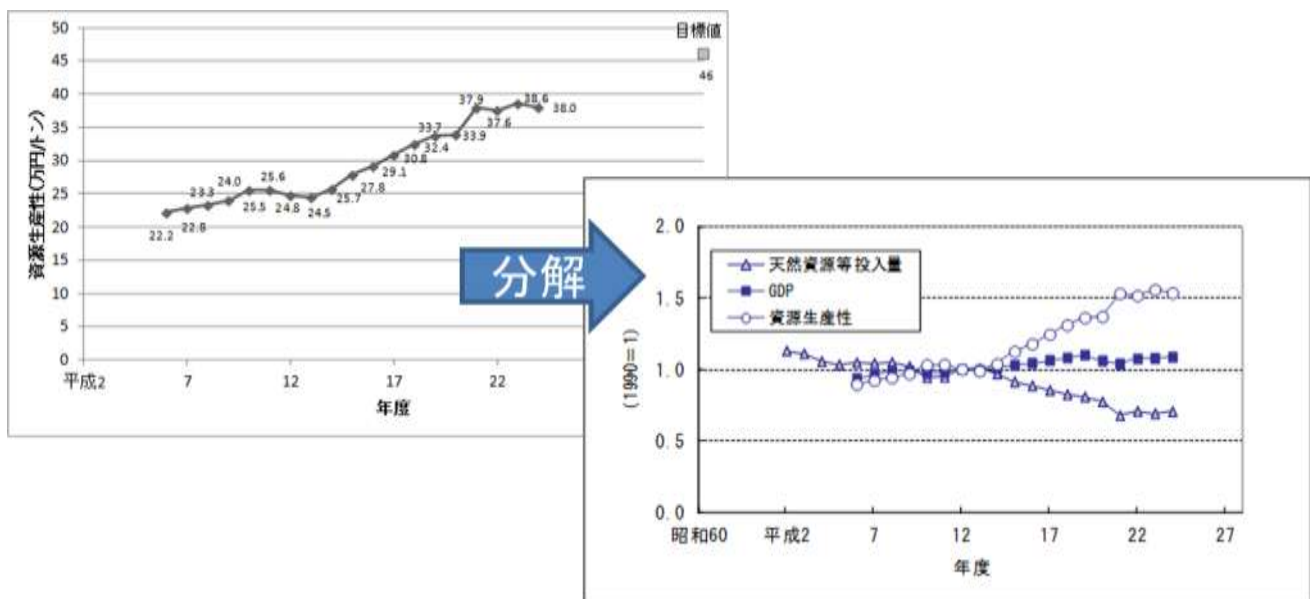
物質フロー指標（資源生産性¹、循環利用率²、最終処分量³）は長期的には向上しているが、近年は横ばい。

資源生産性の長期的な向上は、主に大規模公共工事の減少や産業変化による土石系資源の投入量の減少が要因になっているものと考えられる。また近年、天然資源投入量と循環利用量がともに横ばいとなっているため、循環利用率の伸びも停滞。

今後は、社会的要因等に依らず、3Rの推進により指標を向上させていくことが必要。

		32年度 (目標年)	24年度	12年度 比	長期的 な傾向	短期的 な動向
資源生産性	万円 /トン	46	38.0	+54%	➡	➡
循環利用率	%	17	15.2	+5.3 ポイント	➡	➡
最終処分量	百万 トン	17	17.9	▲68%	➡	➡

（「入口」：資源生産性の推移と内訳）

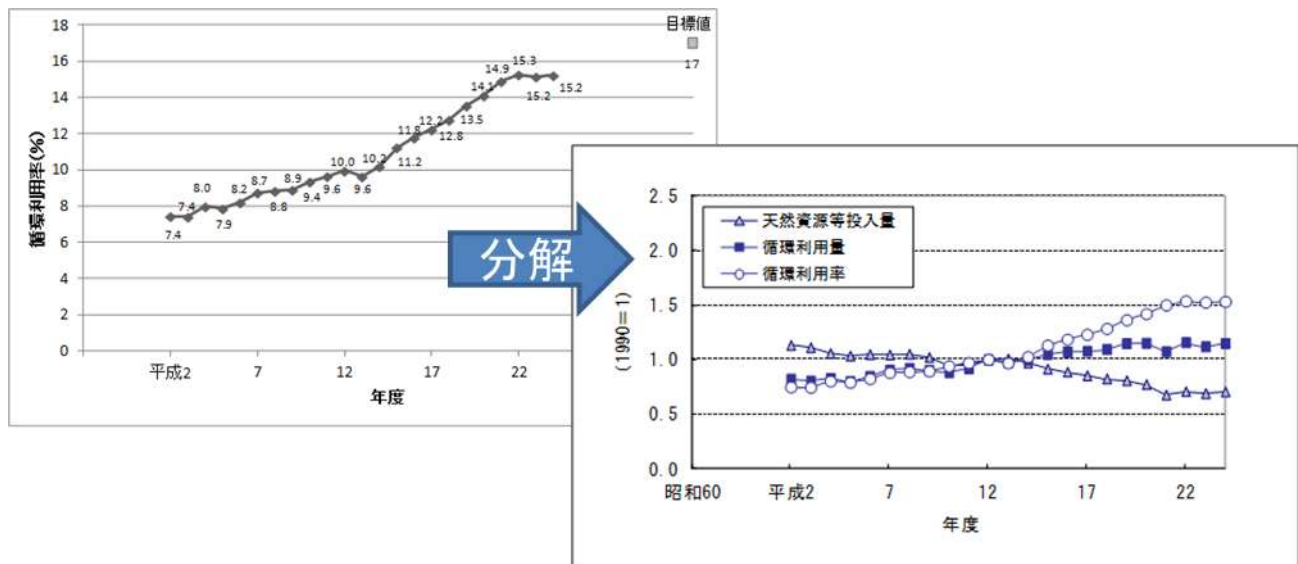


¹資源生産性＝GDP／天然資源等投入量。産業や人々の生活がいかにものを有効に利用しているかを総合的に表す指標。

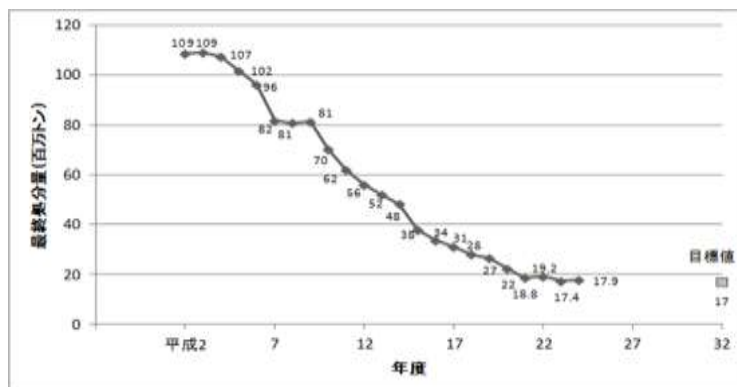
²循環利用率＝循環利用量／（循環利用量＋天然資源等投入量）。経済社会に投入されるものの全体量のうち循環利用量の占める割合を表す指標。

³最終処分量＝廃棄物最終処分量。

(「循環」：循環利用率の推移と内訳)



(「出口」：最終処分量の推移)



2. 今後の展開の方向 (要約)

- 第三次循環型社会推進基本計画で重視している2Rの取組に関して、社会システムの在り方について検討を行うこと。
- 事業者における更なる自主的取組の深化に向け、リデュース・リユース、製品アセスメントや環境配慮設計、業種に応じた資源生産性などの考え方にもとづいた取組の方向性や方針、目安を定めることなど検討を行うこと。
- 素材別の分別・リサイクルが行いやすくなるよう、製品設計段階の取組や、有用金属等の含有情報の共有化のための取組を進めること。
- 資源循環と生物多様性の統合的取組や、長期使用等と低炭素化等、各種環境負荷低減がバランスをとって効果的に実施されるための指針の策定に向けた検討を進めること。
- 地域循環圏づくりに向けた体制整備や、循環資源・バイオマス資源のエネルギー源への利用に向けた廃棄物発電施設等の効率化、中低温熱の利用、熱回収施設設置者認定制度の普及を進めること。
- 国際的な廃棄物管理の取組や国際的な資源循環に関する研究、国際資源の受入体制の確保等に関する取組を進めること。
- 国を含めた各主体の取組を評価するに際して、より実態を反映した評価ができるような評価手法を検討していくこと。
- 評価・課題については、結果のみで判断するのではなく、要因分析を行うこと。
- 第三次循環基本計画の進捗点検に対する環境省関係部局及び関係省庁の関与の強化を図ること。